

## 令和5年度 第3回可児市上下水道事業経営審議会議事録

【日 時】 令和6年1月24日（水曜日）午後2時00分から午後3時00分まで

【場 所】 可児市役所4階第1会議室

【出席者】 審議会委員10人（途中参加の委員2人含む）、事務局9人

### 1. 会長あいさつ等

#### 【会長あいさつ要旨】

本日は大変寒い中、会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は雪の影響もあり、リモートという形で参加させていただくこととなり申し訳ありません。第3回の経営審議会となりますが、よろしくお願ひします。

#### 【定足数】

会長より定足数（8名出席）を満たすことの説明。

#### 【議事録署名者】

会長より議事録署名者として各務委員と金子委員の指名。

### 2. 議題(継続審議)

諮問事項：可児市水道事業の適正な料金

事前質問及び追加説明（資料1から資料3）に対する事務局説明と質疑応答を行った。

その後、諮問事項に対する答申の方向性を確認した。

発言者：☆=会長 ○=委員 ●=事務局

#### 【事前質問の事務局説明に対する質問】

特になし

#### 【資料1の事務局説明に対する質問】

特になし

#### 【資料2と資料3の事務局説明に対する質問】

☆給水収益はどのように計算しているのか。人口ベースなのかそれとも世帯ベースで計算しているのか。

●前回資料の可児市水道整備基本計画概要版4ページに記載があるように、用途別に口径を設定している。生活用水量として使用する13ミリと20ミリについては、過去10年間の1人1日あたりに使用する平均使用水量(201リットル)に、推計給水人口を乗じて水量を計算している。最後に3つの用途別水量の全ての給水量の合計に有収率を加味して、供給単価186円程を乗じて給水収益を計算している。

○人口の増減は収益にそこまで影響を与えないということによいか。

●12月の地域別将来推計人口の数値で試算をしたところ、直近5年間においては人口の増減による大きな影響はないが、先へ進むほど推計人口の差は広がり、30年後は人口の影響は大きいと考えている。

☆事務局からの説明では将来推計人口の数値を用いた試算において、諮問期間の5年間で給水収益も若干減少するが費用の受水費も減少する見込みである。差引で合計140万円程度減益となるが、収益は約25億円に対して0.06%程度で収支が若干悪化する程度であり、その影響は軽微であるとの説明であった。特に意見はないか。

○意見なし

#### 【諮問事項総括】

☆水道料金をどうするかについて、前回もお話したように値上げか、据え置きか、値下げの3つのどれかである。事務局からの説明では、整備計画策定時の人口推計や維持管理費の物価上昇を勘案し、現状の料金体系を据え置いても収支が成り立つ予定であるとのことであった。また、値上げして収入を増やすことで水道管の改修をしようとするればいくらかでも可能ではあるが、今後5年間の事業費を考慮してもそこまでの必要はないと考えられる。さらに、長期的な視点に立てば安易に料金を下げ、また将来的にすぐ上げるということも厳しいと思われる。物価高騰等による家庭への影響を加味しても、水道料金まで値上げするというのは現実的ではない。これに関して意見はあるか。

○意見なし

☆事務局の示した収支計画で事業運営はできるとし、現時点では料金は据え置きの方で答申案をまとめていくことよろしいか。

●会長から見づらい点もあるのでお伝えすると、委員の皆さんには据え置きに同意の頷きをいただいている。また、今後事業を実施していくためには値上げの可能性もあるということに対しても頷きがあったように窺える。

○一同、同意

☆答申内容の文言等については案を事務局にて作成いただき、それをもとに次回の審議会で案についての議論を行いたいと思う。

### 3.その他(今後のスケジュール等)

#### 【能登半島地震の災害派遣報告に対する質問】

○健友会で浜松市防災学習センターに視察に行き、その土地の地下にプール程の広さの貯水槽があり、そこに水が溜めてあった。周辺地域住民の3日分程度の水は備蓄してあるという話であった。可児市においてはこのように水を備蓄している施設はあるのか。

●水を備蓄している施設はない。中区配水場や低区配水場において、地震等の災害があっても溜まっている水が外に漏れないような対策をしている。

○災害時には、トイレを使用するのに2時間以上も待たなければならないという話もあったが、これについてどう考えるか。

●可児市で実際にこの規模の災害が起きた場合には怖いという印象を受ける。可能な限り早急な対策を講じたい。

●配水池には何日分の水が溜まっているのか。

●3日分はないが、約1日24時間分は溜まっている。その間に復旧の対策を講じる予定である。

○能登半島は上下水道管や家屋の耐震化に問題があるという話があった。可児市において同規模の地震が発生した際には、水道管の被害はとなると想定するか。

●配水池などに繋がる水道管について、管の全延長は約88キロメートルある。それに対して耐震化工事を実施しているところであるが、現状は半分程度の45.3%しか完了していない。震度6や7が発生した場合は確実に無事であるとは言いきれないが、震度6弱に耐えられるような耐震化は進めている。被害の規模の想定は難しいが、何とか被害が最小限に抑えられるようにしていきたい。

○被災地では液状化現象について問題となっているが、可児市においてはどうなのか。

●可児市は埋立地がほとんどなく、山を切り崩して作ってきた部分があるため、そこまで液状化の心配はしていない。

○災害時には水道事業として市民の方に何を備えてもらうのがよいか。

●自宅で風呂水等を抜かないことや、飲料水を1日3リットル・3日分程度備蓄することは、最低限行っていただきたいと思っている。

**【今後のスケジュール等】**

- ・会長にまとめていただいたとおり、据え置きの方で会長と相談の上、答申案について検討したいと考えている。
- ・次回開催日⇒2月15日（木）午後2時00分からを予定。
- ・答申案のほか、経営戦略の内容、来年度の上下水道事業の予算について説明を行う予定。

（会議終了）